

TM ニュース

TM ミーティング参加生徒用情報 2018.7.20

<夏季休業に向けて>

今日で一学期が終わり、明日から夏季休業に入ります。以下に記す点に気を付けて過ごしてください。

① 体験研修にしっかり参加する。

体験研修が始まります。研修に関する冊子を確認し、各自の研修の日程、場所などをきちんと把握してください。それぞれの大学、病院、研究所は、TM生のために、特別に時間をとって準備してくださっていますので、誠実かつ意欲的に研修に参加しましょう！

② 論文課題を作成する。

8月21日締め切りで、論文原稿をクラッシーにて提出することを忘れずに！

各自のテーマに沿って何を知りたいのか、何を調べるのかを明確にして論文を作成してください。参考にしたインターネットや文献については、HPアドレスや文献名、著書などをきちんと記してください。いろいろな資料を集めたうえでよく理解し、整理して、自分の言葉で表現してください。

③ 夏季休業を有効に使い、かつ充実させる！

夏休みは、日ごろ忙しくて時間をかけられない学習、調べておきたかったこと、読みたかった書籍など、まとまった時間を有効に使いましょう。高1生は初めての、高校生としての夏休みを過ごしてください。高2生は来年の夏にはできないことを今のうちにしっかりやっておきましょう。気になる大学の情報、受験できる科目なども今年のうちじっくり時間をかけて色々調べておきましょう。高3生は“いかに学習量を積み上げていくか”がかかっている夏です。長い期間ですので、生活が不規則にならないように注意しましょう。

全学年ともに、Classi に学習時間を記録してください。記録を取りつつ、自分の生活や学習を見直しながら、健康に留意して有意義に過ごしてください。

<1学期のTM ミーティングを振り返って>

【現役の医師の方にお話を聞く機会】が2回ありました。

1回目は5月12日、戸山高校を平成20年に卒業後、横浜市立大学医学部医学科に入学され、現在、横浜みなと赤十字病院泌尿器科に勤務されている鈴木敦人医師の講演会でした。(1,2年生40名と保護者2名)

『高校時代は、サッカー中心の生活を送り、勉強の時間はそれほど多くはとらなかった。また、だれが医学部を目指す人もかもわからず、医学部医学科に行くための

学力がどのくらい必要なのかがよくわかっていない中で受験した。結果、浪人をする事になった。SSH生物に所属していたので理科は好きであった。苦手な英語、数学、国語は、予備校で一からやり直した。中学校時代に出会った医師の影響から、医師への憧れと予備校生同士切磋琢磨して勉強に励んだことが良かった。』という医学部受験体験談をご紹介くださいました。加えて、戸山高校のチームメディカル環境は本当に良い環境だとお話くださいました。

その後、医学科のカリキュラムや大学の部活動の意義、さらに、医師国家試験をむかえるまでのお話がありましたが、やはり、大学受験の方がつらいと率直に話をされました。救急医療を学びたかったので、救急搬送件数が日本一の現在の病院を研修場所として選んだとのこと。大切な視点を伝えてくださいました。

後半には医師の勤務の現状や医師のメリット、仕事をする上で大切な「ほうれんそう」(報告、連絡、相談)の徹底や同僚、上司、コメディカル(看護師、薬剤師、理学療法士、医療事務など)の方との人間関係作りの重要性も語ってくださいました。医師をしていく中で、「同じ患者はひとりもない」ことからいつまでたっても極められることがない仕事であることや、常に新しい知識が必要な一方で、時には過去の知識も必要となるなどに面白さややりがいについてお話ししてくださいました。最後に、高校時代の同級生はとても重要であり、出会う人すべてを大切にすることで将来につながっていくこと。そして、医師になるうえで覚えておいてほしいこととして、患者の感覚を忘れないこと(患者は専門家ではない。丁寧な説明が必要です)と、謙虚であり続けること(周囲からもてはやされて自己中心的な言動になりやすいことを諫めてのお話し)を挙げておられました。

これから医師を目指すTM生が何を目指し、どのように大学生、社会人として過ごしていったらよいかのヒントになる話を具体的に丁寧にしていただきました。TM生からは、現実的で具体的なかつ率直な質問がたくさん出ましたが、一つ一つ誠意をもって答えてくださり、有意義な時間を過ごすことができました。



2回目は7月7日に北米在住で心臓外科医のサンバーナーディノ医療センターの梶谷道夫医師の講演がありました。戸山高校では剣道部に所属し、昭和53年に卒業され、北海道大学医学部卒業後、横須賀のアメリカ海軍病院で1年間研修医を勤められ、大学院で博士号を取得されてからアメリカに渡られました。アメリカで心臓外科の専門医になるまでのお話、心臓外科にかかわる手術法の変遷や使われる機器の50年史をわかりやすくお話していただきました。剣道7段、教士の称号をお持ちで全米剣道連盟の理事も務められ、すべてのことに真正面から立ち向かう生き方をされている先生からたくさんのお話を学ぶことができました。(1年生18名、2年生16名、3年生8名)

【受験情報や学習面でのサポート】もありました。

3年生対象の、5月24日の医学部医学科受験対策の講演会と7月10日の医学部合格のための夏の過ごし方の講演会です。

5月には駿台予備校市谷校舎の松本卓也さんより、スタディサポートの個人結果や昨年度国公立医学部医学科の入試状況の具体的なデータをもとにした講演がありました。(3年生10名と1、2年生)

18年度の入試動向、医学部医学科が求める学力と資質、面接試験に関する情報などを提供していただき有益な時間でした。

7月には駿台予備校の竹内昇さんより、夏休みの過ごし方と第2、第3希望を考える際の特徴についての講演がありました。(3年生10名)

様々な入試データをみるときのチェックポイントやセンター後の個別入試で目標にすべき得点の目安などを説明していただきました。さらに、今年の夏休みの過ごし方のポイントとして、

- ①食事をしっかりととり、規則正しい生活を送ること、決まった時間に寝る。朝起きる時間は決めておくなど
- ②毎日10時間以上学習すること
- ③毎日の学習時間を科目別に記録し、(Classiもこれと同じです!)寝る前に振り返りを行うこと、そして科目ごとのバランスを把握して学習を進めていくこと・・・現在の自分の学力を考えて、科目のウエイトを考えることが大切だということでした。

1、2年生向けには6月2日スタディサポートの結果を基にした**特別授業**が行われました。

始めは1・2年生合同で教育事業推進部事業開発室マネージャーの山形隆弘さんより医学部医学科の入試動向や医学部合格に求められる力などについて講演がありました、普段の授業を大切に、定期考査を活用して基礎力の定着を図ることや、模擬試験などを活用して得点力を盤石にしていくステップの重要性をお話していただきました。また、学習時間の確保や定期考査や

模擬試験での得点目標を立て、それを達成していくことが受験につながっていくという、目標設定の大切さも教えていただきました。

次に学年ごとに部屋を分け、英語と数学の特別授業を行いました。

1年生の英語の授業では、センター試験で90%の得点をとるために、基本良問集を繰り返すことや普段の勉強の心構えについて、問題演習を通じて学びました。単語や熟語を学習する際、「なぜ」を大切にすることが、暗記の定着力に差が出るということです。**数学**の授業では医学部合格に必要な力について学びました。入試基礎・標準レベルの問題を素早く正確に解く力を養成することが、難しい問題を解くには必要で、それを踏まえてスタディサポートの問題で演習・解説を行いました。

2年生の数学の授業では、2年時が勝負であることを意識し、小問レベルの問題をきちんと速く解けることや、定期テストで85%を取ることを目標に学習をしていく必要があり、『“わかる”から“自分でできる”になり、さらに、“速く解ける”ようになる』ことをめざすことが大切であると教えていただきました。また今まであまり意識していない、問題を解く際に充てる時間のめやすを考えることなどを学びました。**英語**の授業では、センター試験ではどんな過去問を解いても9割になるように、2年生のうちからしっかり英語を固め、3年生は理科、数学に力を入れるようにしなければならぬとお話がありました。「文法」と「読解」について具体的に問題を解きながら、学習をこれから進めるうえで気を付けるべきこと・・・具体的には、単語を覚える際にひと手間かけて、単語を分解し成り立ちを理解して覚えることと、文章の流れを読み解くには、つなぎ言葉に注意し、指示語をあきらかにしながら読むようにすることが大切であると教えていただきました。

6月16日には、**東京医科歯科大学、自治医科大学、東京女子医科大学**より、入試広報担当の先生方をお招きし、それぞれの大学の医学部医学科の特色や卒業後の進路先の多様性、医学部受験に当たっての留意事項など様々なことがらを含めて講演をしていただきました。

(高1生20名、高2生13名。保護者1名)細かい質問にも丁寧にお答えいただくとともに、自分の目標に対してたゆまぬ努力を続けることや、医師として生涯現役として働くには一生涯勉強を続ける意思を持ち続けなければならないことなど大切な心構えを話していただきました。

◎講演会などでいろいろな情報をインプットしたことと思いますが、それらを参考に自分なりのやり方で学習を進めてしっかり学んだことをアウトプットできるようにしていきましょう！